

2025年度 自己点検・自己評価公表シート

エクレスすみれ保育園

1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）に基づき、「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の4つのつばさを育てることを教育・保育方針とする。
そのために次の項目を保育目標とする。

- ①わくわく どきどき を楽しむ子
- ②心を豊かに 思い合える子
- ③できる！ できた！ を感じる子

2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0~2歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を計り、生活に必要な基本的習慣が身に付くようにする。

3. 学年別目標・計画

0歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で信頼関係の基礎を育てる。
1歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2歳児	保育士と安定した関わりの中で、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的生活習慣を自分でしようとする意欲を育て、身に付けられるようにする。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 保育目標の理解と周知 保育理念、保育方針、保育目標について、保育士間の共通理解ができているか	保育理念、方針、目標は週に1回朝礼時に職員で唱和を行っている。常に教育テーマの「楽しい教育」を念頭に置き、年齢に見合った保育と一人ひとりに対する心身の成長を支えることを心掛けることができた。当園での保育方針、保育理念に関する全職員の共通理解が得られるように、子どもと関わる際の「大人の心得」を週変わりで復唱してから保育室へ向かう。その為、非常勤を含めて概ね職員の共通理解を得てきたと感じる。
2. 保育内容 保育所保育指針の理解、指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができているか	保育目標を念頭に、モンテッソーリ教育の理念の基、戸外での散歩、探索を日々取り入れながら、子ども達の小さな想いや活動を観察し、次への遊びの準備、発展が得られるように、非常勤保育士を含めたクラスカンファレンスを毎日設けている。園児の興味や関心を職員や保護者と共有するためにクラス毎にドキュメンテーションを作成し掲示、活用している。クラス会議では情報の共有を行い、非常勤職員用のクラスノートを作成しクラスの状況把握を全員で見えるように工夫して情報の共有を行っている。職員間では常に子ども達を中心とした会話が行きかい、保育士も子どもを中心とした主体的な活動ができるように環境や活動を考えている。一人ひとりへの関りの中に、教育、養護を意識し、個に対しての目標をもって関わるように取り組みを意識している。

3. 保育環境 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができているか	<p>各クラスの室内環境の構成は、日々のカンファレンスの中で保育エブを活用し職員間で常に検討している。子ども達の興味関心、発達に見合うように環境構成を見直す習慣ができている。また、園周辺の自然環境にも積極的に親しめるように、緑道、公園にある生物や植物の情報を職員間で共有している。園内の畠ではイチゴ、夏野菜、大根他を育てて成長観察し、ジャム作りや葉っぱのふりかけ作りなど、食育活動に活かしている。モンテッソーリ教育の原点である「自分でできる力」を発揮できる場を常に意識し、子ども達が生活習慣を獲得出来るように、一人ひとりの成長発達に合わせて「大人が準備し援助できること」「観察し見守ること」を大切にして関わっている。モンテッソーリ教具の環境設定や取り組みに関しては、職員が子ども達の様子に合わせ提供し、全職員が1年一度は手作り教具を作成し、常に子ども達の様子に合わせて入れ替えをしている。</p> <p>また、町探検を行い、周囲の環境に触れる機会を多く持ち、お花屋さんに実際に買い物に行くなどの機会を設けている。</p>
4. 行事 ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数は適切か PDCA体制をとっているか	<p>交流の場としての親睦会、お芋ほり、クリスマス会を行い、保育士、お友達、親子との触れ合いの場を作り、子どもたちの成長をともに分かち合えるように工夫した。例年行っているお芋ほりと焼き芋大会は普段はなかなか経験できないとのことで、保護者からも大変好評である。保育参加では保護者に無理がないように期間を多く設定して普段と同じ日々を子ども達と一緒に過ごしていただくことで、保育に関する方針にご賛同いただく機会を得ている。また、今年度のクリスマス会では保育士、保護者、子ども達みんなが心身一体となって楽しめるよう、演目や会場の設定を工夫して行った。保育士にとっても楽しく無理のない行事の展開となつたが、課題点はあるので今後も検討は必要である。次年度も子ども達を中心に保護者と職員が一体となる工夫を考えていきたい。</p>
5. 食育 保育の一部となるような活動を行っているか	<p>各クラス保育の中で食育に関する関心は高まっており今年度も「本物」に触れる機会を多く持った。食農保育として、春には栽培したイチゴをジャムに加工、夏野菜の栽培では収穫し、給食室で調理加工していただき、食べることができた。大根栽培では葉の活用でふりかけ作り、切り干し大根作りを行い、普段家庭ではあまり行わない経験を通して食に興味関心を抱いている姿が見られた。保護者にもレシピを伝え、多くの方に野菜のおいしさを知っていただくことが出来た。クラス内でも出来るだけ多くの本物を提供し、触る、匂う、など五感を育てることを大切にしている。</p> <p>また、今年度は、調理員の食育への参加・見学、子ども達の食事の様子見学などの機会を設け、昨年度課題とした調理室との交流を図ることができた。次年度も連携を深めていく。</p>

<p>6. 職員の役割・資質向上</p> <p>専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の職員との連携はできているか</p>	<p>学園研修での取り組みとして幼児教育部門内での研修を年間計画として設けた。モンテッソーリ教育の原点に触れ、フォトカンファレンスやリトミック研修などを行い、幼児教育部門としての連携を深める良い機会となった。園内研修の取り組みとしては、今年度もすみれ保育園としてのモンテッソーリ教育の考え方を統一し、全職員が共通理解を持って関わることができるよう、非常勤を含めた簡単な勉強会を実施したが、昨年度より回数が減ってしまったことが反省である。しかしながら園としての方向性を再認識するよい機会となり、共通理解と質の向上に繋がっている。</p> <p>また、今年度もモンテッソーリ資格を持った他部署の職員から学ぶ機会を設けた。</p> <p>その他に園内研修内容を3グループに分けて計画、実践し、役割別会議を実施。役割別会議では、グループごとに年間を通して自分たちでテーマを決め、ファシリテーターを務め実施していくことで、職員が互いに学びあう機会を増やしている。また、安全訓練と危機管理として毎月テーマを1つ設けて全職員が参加できるように工夫することで、職員の専門性の向上に努めている。</p> <p>今年度も外部研修にも全職員が参加、他県の保育園の職員と繋がりを作り、園見学に参加する機会を数回設けた。他園の運営や保育の方法を知ることで、自園の運営の見直しや、振り返るきっかけとなり、質の向上へと繋がった。</p>
<p>7. 特別な配慮が必要な子どもとの関り</p> <p>当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができるか</p>	<p>今年度、外部（療育センター）支援の協力を得る必要がある対象児は在籍していない為、訪問依頼は行っていない。しかしながら、特別支援に関する知識や医療関係との連携、保護者からの情報を必要とする状況もあった為、職員で情報の共有をし、共通理解に努めた。これからも受け入れ態勢を整えるべく、研修等の自己鍛錬に努める。</p>
<p>8. 保健・安全指導</p> <p>避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができるか</p>	<p>避難訓練は計画に基づいて実施することができた。消防署と連携し訓練も行った。</p> <p>また、今年度も消火訓練と同時にアレルギー食の提供方法、病院へのかかり方、ダイアップの使用方法、嘔吐処理方法などの安全訓練を非常勤職員も交えて行うことで、いざという時に備えている。今後もマニュアルの見直しを行うことや避難誘導の際の危険個所（ヒヤリハット）の洗い出し、置き去り事故防止のためのチェックリスト、人権擁護のチェックリスト等を活用した職員の意識を高める安全計画が必要である。</p>
<p>9. 保護者との連携・情報</p> <p>保護者と連携して、園児の情報を生かした保育を行っているか 園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か 保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか 保護者からの要望や意見に適切に対応できているか 守秘義務を厳守しているか</p>	<p>個人情報の取り扱いについては、法令順守の体制ができており適正に取り扱うことができた。</p> <p>ドキュメンテーション、園行事は勿論、日々の保育士との会話などを通し、園の教育保育へのご理解を頂くことで保護者との共通理解を深めることができている。また、保護者を通じのコミュニケーションツールとなるように、保護者へ「簡単な朝食」「普段の家の遊び」などアンケートなどを実施して掲示することで保護者、職員での会話や連携が増えた。保護者が悩みを発信し易いように、挨拶や受け入れ態勢を大事に考えてコミュニケーション図ることで、保護者からの発信を見逃さないようにしている。育児相談等は、担任は勿論のこと、主任、施設長も常に行っている。</p> <p>行事毎に保護者アンケートを用いて、ご意見を頂く機会を得ている。</p> <p>また、情報の発信として、職員によるYouTubeでのお楽しみ動画配信を行っている。</p>

10. 子育て支援 子育て支援の取り組み、子育ての相談としての機関の実施ができるか	<p>今年度から子育て支援の一環として地域開放事業（月 1 回）、地域交流事業（年 6 回）を実施。参加者も多く、育児相談や保護者同士の憩いの場として活用いただいた。</p> <p>2月末には、イベントとして専門学校と協力し「ヘアアレンジ講座」を実施する予定。</p> <p>また、今年度も一時預かり保育の受け入れを積極的に行い、定期的な利用者も増えた。</p> <p>戸外では全職員が地域の方への積極的な挨拶をこころがけている。</p> <p>気軽に利用できる場として次年度も、地域での保育園の在り方を職員一同で再考したい。</p>
11. 組織としての運営管理 園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができているか 経験に応じた保育士の連携が取れているか	<p>職員同士の連携を常に意識している。朝礼の際の 1 分間スピーチ、日々のクラスカンファレンスを通して、非常勤職員を含めた職員間のコミュニケーションを深めている。また、職員同士が互いにクラス間で協力体制を工夫し合えるように、担任業務を交換する機会を作り、園全体が協力し合える体制作りに励んでいる為、互いが声を出し合い、シフト等で職員配置に課題があるときは共有し助け合う姿がある。</p> <p>情報の共有はサイボウズ（グループウェア）を活用し、職員全体、クラス間、係などで分け、関係職員が常に話し合いに参加できるようにしている。OJT 制度により、先輩職員が仕事の指導をすることで後輩職員が理解を深める姿があった。</p> <p>また、会議ではファシリテーターを決め、発言の機会を設けた。一人ひとりが役割を意識して会議に臨むことができた。今後も工夫しながら「組織」を踏まえた運営に取り組んでいく。</p>
12. 特長的な取り組み 系列園との連携はできているか 部門を超えての関わりを持っているか	<p>子ども同士では認定こども園との交流として、給食室見学、保育園見学、幼稚園見学、園庭利用などを行っている。また、職員間ではエクレスフィアの見学、部門研修会を行い互いに交流の機会を設けている。岩谷学園は専門学校等も存在しており、今年度もすみれ職員が専門学校授業に特別講師として参加。美容学校生に子どもの特性について伝え、今後の実践の際のアドバイスを行った。また、すみれ保育園でも美容専門学校の先生を招き、保護者向けのイベントを開催予定。今後も互いに他の部署への理解を深めるため、交流事業としての場を設けていく。</p> <p>幼児教育部門間での交流は今後の園児獲得に向けて、必要不可欠なものとなるので、職員間が互いに連携を取れる環境を考えていきたい。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 保育環境	自主性を育む環境構成の探求 モンテッソーリ教具の作成と修正 保育室の美化 自然環境の利用
2. 行事	子どもにとって、保護者にとっての「最善の利益」を考え、計画、実行していく
3. 食育	食保育の実施（地域農家の関り） 調理員との関り
4. 職員の役割・資質向上	外部研修の参加 内部研修での資質向上に努める
5. 保健・安全指導	マニュアルの確認と見直し 職員の共通認識
6. 保護者との連携・情報	ドキュメンテーションの作成 参加型保育の実施 SNS での発信 個人面談の充実
7. 組織としての運営管理	自己発揮ができる職場環境 組織人としての在り方と取り組み

2026 年 1 月 20 日